

塩竈市子ども・子育て会議（令和4年度第3回）議事概要 報告書

1. 会議名	塩竈市子ども・子育て会議（令和4年度第3回）
2. 日時	令和5年3月22日（水） 18:30 ～ 19:20
3. 場所	市民交流センター視聴覚室（壱番館4階）
4. 出席者	<子ども・子育て会議委員> 8名 <塩竈市>8名 福祉子ども未来部長、子ども未来課長、保育課長他福祉子ども未来部職員4名、学校教育課職員1名

<議 事 概 要>

1. 開 会 司会（子ども未来課長補佐）
2. 挨拶 平野会長から
3. 議 事 議事前に資料確認後議事

(1) 報告事項

- ① こども家庭庁の設置
- ② 伴走型相談支援及び出産・子育て応援給付金の一体的実施事業について
- ③ 塩竈市の保育の方向性に関する取組等について
- ④ 令和5年度放課後児童クラブ（仲よしクラブ）の取り組み等について
- ⑤ 令和5年度保育所等の入所申し込み状況について

4. その他（事務連絡等）

今後の予定について

5. 閉 会

<主なご意見等の内容>

◆報告事項

- ① 特定教育・保育施設等の利用定員について
- ② 伴走型相談支援及び出産・子育て応援給付金の一体的実施事業について
- ③ 塩竈市の保育の方向性に関する取組等について
- ④ 令和5年度放課後児童クラブ（仲よしクラブ）の取り組み等について
- ⑤ 令和5年度保育所等の入所申し込み状況について

事務局にて説明

【議長】ありがとうございました。委員の皆さまから意見・ご質問等があればお願いいたします。

【委員】こども家庭庁についてですが、ネットで見ると職員が500人体制で開設する記事を確認しましたが、こども家庭庁の出先機関が県内に設置されるものなのでしょうか。それとも、中央官庁からの連絡のみとなるのでしょうか。

【事務局】出先機関が設けられるという情報は、今のところございません。それぞれの省庁で持っていた機能が、こども家庭庁に集約されるものと考えております。

こども家庭庁は内閣府の外局として創設されます。担当の大臣を置き、在庁スタッフの規模は400～500人位となります。先ほど課長が申し上げましたように、実際どのような仕事をするかは、厚労省は厚労省、学校教育は文科省、基本はこれまでと同様ですが、ただ、ばらばらに取り組むことなく、こども家庭庁が一貫した総合調整を行いながら、ばらばらにならないようにすることが国の戦略であると考えます。例えば仙台市にある合同庁舎にこども家庭庁の東北管区事務所が設置される等の情報は得ていないので、恐らく内閣府の官邸や霞が関の官庁に厚労省や文科省を指揮監督する形で、地方出先機関は置かない認識を持っています。

【委員】はい、わかりました。個人的には、このこども家庭庁がどれだけ機能するかは疑問です。

【議長】はい、ありがとうございました。他にございますか。

【委員】2ページ資料（2）伴走型相談支援ですが、出産応援給付金が5万円、子育て応援給付金5万円、別々の申請で合わせて10万円貰えるという理解で宜しいですか。この事業は塩竈市だけではなく、全国的な取り組みであるという考え方で宜しいですか。

【事務局】国では、全市町村で取り組むよう通知されており、基本的に選択制ではありませんが、現金支給又は現物支給のどちらかで各市町村で対応されると考えております。

【委員】園を利用する保護者へお伝え出来ると良いと思いました。資料4の放課後児童クラブですが、自分自身勉強不足で把握しきれれておりませんが、授業が終わり帰宅せず、そのままクラブを利用すると思います。資料中、杉の入小学校のクラブを利用する5、6年生の児童が多いようですが、子どもが家で一人での

が不安な共働き世帯など、どのような家庭の子ども達が利用しているのでしょうか。

【事務局】基本的に放課後児童クラブは入所要件がありまして、児童が帰宅後、保護する方がいない家庭が条件です。祖父母も含めて、家に誰かがいる家庭は入所要件には該当しません。夏休み中も含めて誰も家にいない家庭が条件です。

【委員】クラブは家庭的に配慮が必要な児童が利用できるのではなく、家庭が望めば利用できるのですね。

【事務局】以前は低学年の児童を対象にしておりましたが、高学年の児童の受け入れについて年齢を拡充してきた経過がございます。高学年の児童は多く退級されていきますが、支援が必要な児童については高学年であっても利用する傾向があります。杉の入小学校のクラブだと4年生が32名、5年生11名、6年生9名の状況です。学校の先生にお聞きすると、放課後に学校の校庭で遊べる機会が年々減ってきているとのことですが、それでも、放課後に遊べるクラブが楽しくて高学年になっても入級している子どもがいるのではなかろうかとの説明をいただいております。

【委員】私が小さい頃は、放課後に校庭を開放しており、校庭で自由に遊べたので良かったのですが、詳しい理由は分かりませんが、学校はどこかのタイミングで校庭開放を無くしてしまいました。しかし、小学生も中学生も子ども達にとって居場所づくりは必要であると考えますので、質問をさせていただきました。

続いてですが、事務局から資料5の説明がありましたが、1歳児の入園者数が多いとの説明がありましたが、私は保育園の運営をしておりますが、今年0歳児の入園が少数でした。これは、コロナの影響の他、産休・育休を取得する家庭が多いことなども考えられると思いますが、市で公表している出生数も絡んでいるのではなかろうかと考えます。どの街も少子化は進んでおりますが、これらの因果関係をはっきりさせたうえで、塩竈市は子どもを生み育てやすい街としてPRしていかないと、今後保育園が出来ていく一方で、もし塩竈市に子どもが集まらなくなることを心配しております。もちろん、市として今後の対策は十分考えられていると思いますが、私も含めて保育関係者も考えていく必要があると個人的には思っております。ありがとうございました。

【議長】私からも宜しいでしょうか。以前の仲よしクラブに入級が可能な学年は3年生までとのことでしたが、現在は4年生以降も入級可能であるとの説明でした。全体的には4年生以上の高学年になると入級者数は減少する傾向ではあります。これは様々な理由が考えられますが、子どもが自らご両親が家に不在であっても地域の社会資源と積極的に繋がっていかうとするため、減少しているのではなかろうかと考えます。

つまり、児童クラブに通級しなくても何かと繋がっていける、例えば子ども達同士が公園で遊ぶ、あるいはスポ少や塾に通う等、これらが要因となって高学年の通級者が減少しているものと考えます。その中で、杉小クラブについては下級生の通級者が多いですが、何か特別な要素があるのか、学年構成上そのようになっているのか、居心地がいいからなのか、その考察が必要であると考えます。そ

のような意味で杉小クラブはいいモデルになるかもしれませんね。ここ1,2年通級者が増加しているので、増加要因の検証は必要であると思いました。

次に資料5についてですが、令和5年度の入所申込数が令和4年度と比較すると1パーセントの減少とのことですが、出生者数のチェックは必要であると思います。あと、子育て世代の人口がどうなっているのか等、大きな括りの中で仲よしに通級する利用者の状況についての検証も必要と考えます。将来、安定的に地域の資源となりうる保育園が存在し続ける、または保育園の経営がなされていくのかを考えていくのが大事だと思います。機会があれば、そのようなデータも開示いただけると良いと思いました。ニコサポ等で様々な事業に取り組んでおられますが、だからと言ってすぐに数値に現れるものではないと思いますが、関連として見ていくのは良いことだと思います。

【委員】 資料2ですが、生まれたご家庭での面談の実施や給付金が支給される話は聞いておりましたが、全部のご家庭で面談はできてますか。

【事務局】 面談についてですが、①と③は全ての対象者に対して、面談が出来ております。

【委員】 先ほど希望者だけとの説明がありましたが、妊婦本人が希望しなくとも、面談が必要な方はいないのですか。

【事務局】 8か月未満の妊婦につきましては、7ヶ月の時点で全員の妊婦にアンケート調査を行います。その中で、面談で希望者を抽出するとともに、本係で資料のスキームの①での妊娠時の面談で気になる方については、直接お会いして面談しております。

【委員】 自分から言えない方もいらっしゃるので、保健師さんにご配慮いただけると良いと思います。

【議長】 はい、ありがとうございます。他にございますか。

それでは、事務局から説明があった件について、他にご意見がありませんので、これで議事を終了します。

ご協力ありがとうございました。